

肉便器の朝は早い

#12 二階堂早希（にかいどう さき）

シナリオ…RM山形

サークル名…ケチャップ味のマヨネーズ

「肉便器の朝は早い」

「何故かと言うと、答えは簡単。」

肉便器である私を必要としている男の子が、私の予想以上に多かったからだ」

「流石に授業中に堂々とセックスを始めるわけにもいかないの、

こうして私は、毎朝誰よりも早く登校し、そして放課後は一番最後に帰宅する。

ここ最近、そんな生活を繰り返して送っていたりするんです！」

「え？自分で自分の事を肉便器なんて言って、恥ずかしくないのかって？」

「んふふー、それが全然恥ずかしくなんかないのデス！

むしろ私は私が肉便器である事を誇りに思っている。

そう言っても過言じゃないくらい、今の自分が大好きなんだ！」

「だって、もしもこの世界におトイレがなかったら貴方はいったいどうするの？
どこでおしっこをすればいいのって、すごく困ると思うよ？」

「だから、おトイレが人間の生活に絶対に必要なモノであるように、
私の存在は、えつちな事がしたくてしたくて堪らない男の子達にとって、
必要不可欠なモノなんだ」

「ね？…貴方もそうなんだよね？」

「んふッ…朝からおちんちんがパンパンだねえ…もう我慢出来ないのかな？」

「部活の朝練が忙しいなんて言ってえ、

ホントは練習の時も、ずっと私の身体の事ばかり考えてたんでしょ…？」

「ううん、いいんだよ。

なかなかしてあげられなくてごめんね…？」

ずっと我慢してたご褒美に、早希が貴方のおちんちん…いっぱい舐めてあげるね？」

「こうしてえ…制服のジッパを下ろすとお…ほらあ、出てきちゃったあ。

もう我慢出来ないよーって、おちんちんが切なそうに言ってるよ？

ちゅッ…ねえ、僕のおちんちんをいやらしく舐めて下さいって言ってみてえ…？」

「ねえ、早くう…？」（男をからかいながら自分も興奮しています）

「どうしたの？恥ずかしくて言えないの？」

ちやんとハッキリ言わないと、お口じゃなくてお手々でシゴいちゃうよお…？」

「シコシコシコお…シコシコお…。」

ふふふつ、もう先つちよからえつちなお汁（しる）が垂れてきてるう」

「ふふつ、ごめんね…ちよつといじめ過ぎちゃったかなあ…？」

それじゃあ…あーむう…んっ…ん…う…んっ…ちゆるう…ん…ッ…う…んう…。」

ん…あ…ん、ん…んちゅ…うん…ん…あ…ん…う…ん…んう…ちゅ…ん…う…ッ…」

「んっ…ん…う…んっ…ちゆるう…ん…ッ…う…んう…。」

んあ…ん、ん…んちゅ…うん…んっ…ん…う…んっ…ちゆるう…ん…ッ…。」

う…ん…ん…あ…ん、ん…んちゅ…うん…ん…あ…ん…う…ん…ちゅ…ん…ちゅばあ」

「すつごいい、ビクビク脈打っててえ、生きてるって感じい…。」

こんなにおつきくなったらあ、すごく痛いしい、辛いよねえ…？」

このまま出したくなったら、遠慮しないでいっぱい出してもいいんだからね…？」

「じゆるう…ちゅばあ…ん…ん…ッ…う…ちゅ…。」

んっ…んっ…ん…う…んっ…ちゆるう…ん…ッ…う…んう…。」

ん…あ…ん、ん…ちゅ…うん…ん…ん…う…んっ…ちゆるう…ん…ッ…ちゆるるう」

「ん…う…んっ…ちゆるう…ん…ッ…う…んう…。」

ん…あ…ちゅ…う、んう…ッ…ん…んっ…ん、ん、ん…ンンン！？」（口内射精）

「じゆるう…んっ…コク、コクン。（飲みました）

あはあ…すごく濃いのがいっぱい出たねえ…？えへへ、全部飲んじやったあ…♪」

（続きは製品版をご購入下さい）